

がんとともに生きる時代

生涯でおよそ2人に1人ががんになる時代だからこそ、がんをもっと身近なものとして考える必要があります。また、がんの治療法や治療中の生活は人によってさまざまです。それぞれの立場で考え、みんなが過ごしやすい環境を作ることががん対策の一つです。

肺がん・結核検診

【問合せ】保健課

☎773-6811

肺がんとは

肺がんは、気管支や肺胞の細胞ががん化する病気です。日本では1年間に約12万5千人がんと診断され、男性に多い傾向があります。患者数は60歳ごろから急激に増加しはじめ、高齢になるほど多くなります。

肺がんの症状

早期の肺がんは、症状がほとんど現れません。がんが進行すると、咳やたん、息切れなどの症状が現れてきます。ただし、咳やたんなどの症状は、肺がん以外の病気でも現れる症状です。複数の症状が現れたり、長く続く場合は早めに医療機関を受診することが大切です。

肺がんは進行していても症状がほ

とんど現れない場合もあり、検診などで発見されることもあります。喫煙との関係

肺がんの代表的な原因は喫煙です。たばこの煙には多くの発がん性物質が含まれています。喫煙者は、非喫煙者に比べて男性は4.4倍、女性では2.8倍肺がんになります。喫煙を始めた年齢が若く、喫煙量が多いほどリスクが高くなります。受動喫煙も肺がんのリスクを2〜3割程度高めます。喫煙歴がある人は、症状がなくても注意が必要です。

住民検診における肺がん検診結果

年度	平成29	平成30	令和1
受診者数 (人)	7,216	7,241	7,178
要精密検査者数 (人)	168	144	117
精密検査受診率 (%)	89.3	89.9	97.4

肺がんを予防

肺がんを予防するために、たばこを吸っている人は禁煙し、吸わない人はたばこの煙を避けて生活しましょう。禁煙を始めてから10年後には、禁煙をしなかった場合と比べて肺がんのリスクを約半分に減らせることが分かっています。

がんを防ぐための新12か条

(がん研究振興財団より)

- 1条 たばこは吸わない
- 2条 他人のたばこの煙を避ける
- 3条 お酒はほどほどに
- 4条 バランスのとれた食生活を
- 5条 塩辛い食品は控えめに
- 6条 野菜や果物は不足にならないように
- 7条 適度に運動
- 8条 適切な体重維持
- 9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 10条 定期的ながん検診を
- 11条 身体の異常に気が付いたら、すぐに受診を
- 12条 正しいがん情報でがんを知ることから

※すべてのがんのリスクを下げるための基本となる項目です。日本人を対象とした疫学調査や研究方法から明らかにされたものです

がんについて正しい知識を身に付けましょう

医療の進歩に伴い、がん治療と仕事を両立させる人が増えています。働きながらがん向き合う社員を職場でサポートするためにも、みんなががんについて正しく知ることが大切です。

周囲がチームとなり病気そのものだけでなく、生活や収入、治療費などさまざまな不安と向き合い、働き方などを一緒に考えることも必要です。国立がん研究センターがん対策情報センターのウェブサイトで、さまざまな情報を調べることができます。がんとともに生きるには、医学的な治療だけでなく、一人で抱え込まない、周囲に相談する、記録しておくなど本人と周囲の心構えが大切です。

悩んだときは…

まずは、治療する病院に相談してみましょう。県内には、がん相談支援センターが設置されています。治療や療養生活全般などについて相談することができ、不安なことや気になることは一人で抱え込まず、相談しましょう。県内の各相談先については、新潟県ウェブサイトを「がん相談支援センター」で検索)をご覧ください。

